

2017 年度
事業計画書

2017 年 1 月 1 日から
2017 年 12 月 31 日まで

公益財団法人 世界こども財団

I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

1 方針

震災から6年目を迎え変わりつつある被災地のニーズを汲み取りながら、福島県相馬市・南相馬市の子どもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリング、スポーツ交流、県外体験学習及び健康相談会を他の支援者とともに協働して実施する。

2 支援事業の概要

(1) カウンセリング

- ・復興に向け被災地（福島県相馬市・南相馬市・新地町）は大きく変貌しようとしている。その環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童・生徒、教員及び保護者等が見られることから、昨年度までと同様彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請がきている。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから他の支援者（相馬市・南相馬市教育委員会、NPO 法人相馬フォロアーチーム、NPO 法人星槎教育研究所及び学校法人国際学園）とともに協働して支援を行う。
- ・世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネート及び支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）及び一部経費負担等の支援活動を行う。
- ・カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
カウンセリング	福島県相馬市	小中学校の児童・生徒・教員・保護者	後日決定
	福島県南相馬市	小中学校の児童・生徒・教員・保護者	後日決定
	福島県相馬郡新地町	高校の生徒・保護者	後日決定
備考	・【支援者（機関）】 相馬市・南相馬市教育委員会、NPO 法人相馬フォロアーチーム、NPO 法人星槎教育研究所、学校法人国際学園 【実績】 ・2011 年度より継続実施		

(2) 健康相談

- ・福島県相馬市は原発事故による放射線物質の飛散が心配され、その住民への影響が危惧されてきた。しかし、これは科学的データにもものづくものではなく、風評の域を出ないものであるが、住民の方々は健康への影響について大きな不安を抱き続けているのが現実である。一方、仮設住宅居住者も減少しているが、仮設居住者の健康診断を継続的に行っておくことは将来的にも大きな意味のあることである。上記観点より、被災地住民の原発事故による健康不安への対処および仮設居住者の健康状態の継続的チェックを狙いとした健康診断をするよう要請がなされた。本支援は世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（相馬市保健センター、東京大学医科学研究所及びそのネットワークの医師団並びに学校法人国際学園）とともに協働して支援を行う。
- ・世界こども財団は、本健康診断に関する支援対象者について保健センターとの調整、健康診断の実

施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等の支援）及び一部経費負担等の支援活動を行う。

・健康診断の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
健康相談（健康不安への対応）	福島県相馬市	住民（周辺地区の仮設住民含む）	2017年7月頃
備考	・【協働者（機関）】 相馬市保健センター、東京大学医科学研究所及びそのネットワークの医師団、学校法人国際学園 【実績】 ・2011年度より継続実施		

(3) スポーツ交流

- 被災地である福島県相馬市より、子どもたちを元気にするため、前年度に引続き子どもサッカースクール及びサッカー指導講習会の開催についての要請がきている。

本開催要請は、世界子ども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア、学校法人国際学園）とともに協働して実施する。

- 世界子ども財団は、本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）及び一部経費負担等の支援活動を行う。

・スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程等
・子どもサッカースクール ・サッカー指導講習会	福島県相馬市	■小中学校の児童・生徒 ■青年等	2017年1月頃
	福島県相馬市	同上	2017年8月頃 ※児童・生徒を星湘南大磯キャンパス（神奈川県）へ招待
	福島県相馬市	同上	2017年10月頃
備考	・【協働者（機関）】 神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア（東京大学、横浜国立大学、神奈川大学など）、学校法人国際学園 【実績】 ・2016年度より継続実施		

(4) 県外体験学習

- 被災地である福島県相馬市より、前年度に引き続き、子どもたちを元気にするための県外体験学習の要請がきている。本体験学習は、放射線への不安から未だに屋外における野外体験学習を十分に行えない子どもたちを、大自然の宝庫である北海道に招待し、のびのびと野外体験学習を行っても

らうとともに、それを通じて友だち、仲間への配慮、共同作業・規律の大切さを学んでもらうことを目的としている。これまでに実施した体験学習では、これら目的が十分達成できたと評価をいただいている。については本体験学習の継続が望まれているので、2017年度においても引続き本体験学習（北海道に夏・冬1週間程度招待し夏は主に自然観察、冬はスキーと年2回の体験学習）を他の支援者（北海道芦別市、北海道帯広市、学校法人国際学園）とともに協働して実施する。

- ・相馬市は参加者を広く募集し、世界子ども財団は、本体験学習に関する参加者について相馬市との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）及び一部経費負担等の支援活動を行う。
- ・県外体験学習の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
体験学習	福島県相馬市	小中学校の児童・生徒	2017年8月頃 ※自然観察、ものづくり体験
	福島県相馬市	小中学校の児童・生徒	2017年12月頃 ※スキー体験、雪上体験
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【協働者（機関）】 北海道芦別市、北海道帯広市、学校法人国際学園 ・【実績】 ・2012年度より継続実施 		

II 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

1 方針

開発途上国であるミャンマーに対し、保健衛生及び医療環境向上のための支援活動を他の支援者とともに協働して実施する。

2 支援事業の概要

(1) ミャンマー：無線中継局を設置し救急車との無線交信範囲拡大、そして救急車の追加寄贈

- ・2016年11月、ミャンマーを訪問し、新政府の保健・スポーツ省大臣と会談し、本件実現のため具体的に協議を進める旨合意している。2014年に寄贈した救急車には無線装置を装備しているので、通信用の中継局（中継タワー）をネピドーに整備することにより、基地局（病院・保健所等）との交信範囲が大幅に広がり、救急車の活動範囲が拡大するとともに、緊急対応性が格段に向上される。併せて救急車の台数も増やし（当面追加2台）、より機動的な医療活動ができるようにすることを目的とする。

- ・無線中継局設置寄贈の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
無線中継局の	ミャンマー（保健省）	ネピドー周辺の医療僻地	2017年秋頃

建設・設置及び追加救急車の寄贈			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【協働者（機関）】 一般社団法人ミャンマー協会、株式会社ファム、学校法人国際学園 		

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業

1 方針

スポーツ交流を通じ、エリトリアとの国際相互理解を図るため、同国より陸上に才能のある高校生の留学受入れ及び若手陸上選手の短期留学を他の支援者とともに協働して実施する。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア留学生（高校生）の受入れ

- ・エリトリアより、陸上に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばすとともに、日本の高等教育を受けさせることにより、将来、エリトリアの発展そして日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人学生は外国、特にアフリカをより身近に実感でき、国際的視野が広がることが期待できる。

・留学受入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	エリトリア（教育省・陸連）	エリトリアの高校生2名程度	2017年1月頃より
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【受入れ校】 学校法人国際学園 ・【協働者（機関）】 星槎学園、学校法人国際学園、日本陸上競技連盟 		

(2) エリトリア若手陸上選手の短期留学受入れ

- ・日本陸上競技連盟が主催する長距離選手強化合宿に、エリトリア若手陸上選手及びコーチを参加させ、日本の科学的トレーニングを体験させるとともに、更なる才能の開花を促す。一方、日本選手には優れた潜在能力を有するエリトリア選手との合宿が世界へ挑戦する刺激となることが期待される。これにより、両国陸連同士の交流が進み、相互にレベルアップすることが期待される。

・短期留学生受入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
エリトリア若	エリトリア陸連	エリトリア若手陸上選手	2017年夏頃

手陸上選手の 合宿受入れ		及びコーチ	
備 考	・【協働者（機関）】 日本陸上競技連盟、学校法人国際学園		

(3) エリトリア文化・スポーツ庁長官招聘

- ・上記の通りエリトリアとのスポーツ・文化交流は順調に進展してきているが、今後更なる発展を期する目的で、同国でスポーツ・文化交流を担当する文化・スポーツ庁長官を日本へ招聘する。日本のカウンターパートである日本陸上競技連盟、JOC、スポーツ庁等との会談をセットし、双方の意思疎通を緊密にすることで、将来への動きをスムーズかつ迅速化することができると期待される。

・招聘の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
エリトリア国 文化・スポーツ 庁長官招聘	スポーツ・文化交流の促進	エリトリア・スポーツ界	2017年2月
備 考	・【協働者（機関）】 JOC、外務省、スポーツ庁、日本陸上競技連盟、学校法人国際学園		

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 方針

開発途上国の子どもたち、その中でも特に弱い立場にいる孤児の自立を支援するため、他の支援者とともに支援活動を実施する。

2 支援事業の概要

(1) ミャンマー国内（ネピドー近郊）孤児院に対し支援活動を実施し、将来孤児院が自律的に運営できるようにする。

- ・金銭、食料等を提供することは、孤児たちが生死の窮状にある時には大切なことであり、必要不可欠なことであるが、長期的には孤児院経営を安定、自立させることが重要である。2016年11月現地視察時、そのための支援として、孤児院に付属する農場経営へのアドバイス及び経営人材の育成を求められているので、その支援をおこなう。

・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備 考
------	--------	-------	-----

孤児院の分析 および運営・経 営候補者の研 修	ミャンマー国内孤児院	ミャンマー孤児院の子ど もたち	—
備 考	・【協働者（機関）】 ミャンマー保健・スポーツ省、学校法人国際学園		